

第3節 小児がん対策

【現状と課題】

現 状

- 1 患者数等
 - がん登録事業でみると、本県の小児がん患者（0～19歳）は、平成25年で170件把握されており、全てのがん（43,444件）の約0.4%を占めています。（表6-3-1）
 - また、小児慢性特定疾病医療給付において、平成28年の悪性新生物による給付は、443件が承認されています。
 - 本県の0～19歳の悪性新生物による死亡数は平成25年で28人です。（0～19歳の死亡数全体：311人）
 - 小児がん拠点病院以外で小児がんの診断治療を10件以上行っているがん診療連携拠点病院（質の高いがん医療が受けられる国が指定した病院をいう。）及び愛知県がん診療拠点病院（国指定に準じる機能を持つ県が指定した病院をいう。）は平成25年で8か所あります。
- 2 医療提供体制
 - 国は、平成25年2月に、固形腫瘍及び造血器腫瘍における治療実績を有し、連携協力病院等とともに、専門的な小児がん医療を提供する医療機関について、全国で15医療機関を小児がん拠点病院として指定しています。
本県では、名古屋大学医学部附属病院が指定されています。
 - 小児がん拠点病院では、集学的治療・緩和ケアの提供、医師等に対する研修の実施、難治性・再発がんに対する治療体制、セカンドオピニオン体制の整備及び臨床研究の推進等、地域全体の小児がん医療及び支援の質の向上を図りつつ、小児がん患者とその家族が安心して適切な医療を受けられるような心理社会的な支援、適切な療育・教育環境等の提供を行っています。

課 題

- 成長期にあるという小児の特性を踏まえ、本人・家族に対する心理社会的な支援、適切な療育・教育環境等の提供、治療による合併症や二次がんに関する相談支援・対応等の長期的な支援を図るためには、小児がん拠点病院とがん診療連携拠点病院及び愛知県がん診療拠点病院との連携協力体制を充実させていく必要があります。
- 退院後は、小学校や中学校等で日常生活の多くの時間を過ごすこととなり、小児がん患者のこれらの学校等への復学を支援していく必要があります。

【今後の方策】

- 小児がん拠点病院を中核とした連携協力体制の強化を行うことにより、地域の小児がんの治療体制、相談支援及び療養体制の整備や長期的なフォローアップが可能な体制の整備を目指します。
- 小児がん治療に伴い必要となる院内学級等療養支援に関する情報や、家族の宿泊施設などの情報の収集・発信を行うなど、患者だけでなく家族の支援に努めます。
- 小学校や中学校等への復学時に重要となる教諭等への小児がんに関する情報提供を行い、小児がん患者の復学を支援していきます。

表 6-3-1 小児がん患者の把握数（地域がん登録で把握された罹患数）

| 平成 21 年 | 平成 22 年 | 平成 23 年 | 平成 24 年 | 平成 25 年 |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 159 件 | 127 件 | 129 件 | 149 件 | 170 件 |

資料：「愛知県のがん登録」

表 6-3-2 小児がん初発診断症例数（平成 26 年 1 月から 12 月診断）

| | | 白血 病 | 悪性 リン パ種 | その他 造血器 腫瘍 | 脳・脊髄 腫瘍 | 骨軟部 腫瘍 | その 他 | 合計 |
|----------------|------------------------|----------|----------------|------------------|------------|-----------|---------|-----|
| 小児がん拠点病院 | 名古屋大学医学部附属病院 | 16 | 3 | 7 | 28 | 4 | 30 | 88 |
| がん診療連携拠 点病院 | 名古屋医療センター | 9 | 2 | 0 | 0 | 6 | 7 | 24 |
| | 名古屋市立大学病院 | 6 | 1 | 0 | 4 | 0 | 5 | 16 |
| | 名古屋第一赤十字病院 | 14 | 3 | 1 | 7 | 1 | 3 | 29 |
| | 名古屋第二赤十字病院 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 5 |
| | 藤田保健衛生大学病院 | 5 | 0 | 0 | 3 | 3 | 4 | 15 |
| | 愛知県厚生農業組合連合会 安城更生病院 | 4 | 0 | 0 | 2 | 2 | 1 | 9 |
| | 愛知県がん 診療拠点病院 | 愛知医科大学病院 | 8 | 7 | 0 | 2 | 2 | 5 |
| | 刈谷豊田総合病院 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 3 |
| | 計 | 65 | 18 | 8 | 49 | 18 | 55 | 213 |

資料：小児がん診療に関する調査（平成28年5月実施）

注：小児がん拠点病院（名古屋大学医学部附属病院）、がん診療連携拠点病院及び愛知県がん診療拠点病院院内の平成25年分がん登録が10件以上の病院を対象に調査

用語の解説

- 小児がん拠点病院
小児がん患者とその家族が安心して適切な医療や支援を受けられるような環境を整備した小児がんの拠点病院で、全国で15医療機関が指定されています。
- 連携協力病院
クリティカルパス等を用い、小児がん拠点病院と連携し、小児がんの診断、治療及び長期フォローアップ等を行う病院
- クリティカルパス
拠点病院と地域の医療機関等が作成する診療役割分担表
- 固形腫瘍
脳腫瘍や骨肉腫、横紋筋肉腫など、かたまりをつくって増生する悪性腫瘍
- 造血器腫瘍
白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫などの血液の悪性腫瘍
- 小児がん治療後の合併症（晩期合併症）
小児がんに対する化学療法、放射線療法等による治療後、数か月、あるいは数年が経過後（晩期）に生じる健康上の問題（小児がん治療による正常細胞への影響やその機能不全）
晩期合併症の種類、リスクは、治療内容（薬剤などの種類、量、投与方法）、治療時の年齢などにより異なります。
例：成長・発達、性成熟（二次性徴）、心肺機能、不妊などへの影響、二次がん発症等
- 二次がん
小児がんが治癒した後に、小児がんに対して行った抗がん剤や放射線照射などの治療が発症リスクになると考えられる、別のがんを発症すること